

## 令和 年度 技術士第二次試験答案用紙

24 字×25 字

○解答欄の記入は、1マスにつき1文字とすること。なお、英字・数字は1マスに2文字を目安とする。

## 2. 業務手順および留意点、工夫点 ④

- ④ 業務手順の中に計画の最も重要な部分と言える「理念・方針・目標像」がありません。これらの方針設定がないまま、施策検討することはできません。また、取り組みがうまくいっていないのですから、景観形成基準（建築物・広告物・工作物等）の検討も抜けているのは問題です。さらに致命的なのは、景観計画区域、景観形成の方針、景観形成基準、景観協定などの記載がありません。景観計画は、法廷手続きです。景観法に基づく計画としての必須要素が抜けているため、技術士試験の論文としては大きな減点対象となります。

### ( 1 ) 検討体制

計画案を策定するための検討体制を構築する。構成メンバーはまちづくり関連部局を中心に、景観審議会等による有識者や、地元産業 ⑤ や住民などとし、多角的な意見が得るよう ⑥ 、工夫を行う。

- ⑤ メンバーの例になっていません。→「地元産業団体」

- ⑥ 主語は計画策定者ですよね。自分が意見するのではなく、意見を得るための工夫ではありませんか。

### ( 2 ) 施策の評価

現計画の施策の評価を行う。実施できた施策については効果を検証し、実施できなかった施策 ⑦ についてはその理由や改善点を把握することに留意する。

- ⑦ 問題文には「取組は進めているものの」とあるので実施しているではありませんか。この条件を踏まえると、「十分に機能していない施策」ではありませんか。

### ( 3 ) 重点地区の追加の検討

○解答欄の記入は、1マスにつき1文字とすること。なお、英字・数字は1マスに2文字を目安とする。

前述の調査結果に基づき、重点地区案を作成する。  
既存の緑地等に対しては、特別緑地保全区域⑧の指定  
を並行して検討する等、地域の魅力を高める⑨工夫を  
行う。

⑧ →「特別緑地保全地区」

⑨ 特別緑地保全地区は「魅力を高める」ための制度ではなく、既存の良好な緑地・景観資源を保全する制度であり、制度と目的がズレています。

( 4 ) 実施施策および主体の決定

実施施策及び実施主体⑩を決定する。実施にあたっては、条例改正の必要性を検討することに留意⑪する。

⑩ 決めてはダメというわけではありませんが、実施主体の決定は“実施段階のマネジメント”であって、計画策定の必須項目ではないと思います。

⑪ 「必要性を検討する」だけでは弱く、手引きの意図を十分に満たしていません。正しくは景観計画と既存条例の整合性を確保する、必要に応じて条例改正や運用改善を行うといったことではありませんか。

( 5 ) 景観重要公共施設の活用の検討

地域のシンボルとなり得る公共空間の活用を検討する。工夫点として、建物と道路を一体的に捉え⑫、相乗効果を発揮する景観を創出する。

⑫ これは「デザインの工夫」であり、制度の工夫ではありません。手引きでは、景観形成に寄与する公共施設を指定、指定の考え方、管理者との調整などが示されています。

( 6 ) 実施スケジュール及び計画案の公表

# 令和 年度 技術士第二次試験答案用紙

○解答欄の記入は、1マスにつき1文字とすること。なお、英字・数字は1マスに2文字を目安とする。

計画案の実施スケジュールを作成したうえで、計画案を公表する。公表にあたり、自治体のHPやSNSを活用し、広く意見を募るなど多角的な視点⑬を盛り込むなどの工夫を行う。

⑬ 多角的は、行政や専門家が複数の角度から検討するときに使う言葉です。これは意見を出す側の視点なので幅の広さを表す方が良いでしょう。→「多様な視点」

3. 業務を効率的、効果的に進めるための関係者

(1) ステークホルダー ⑭

庁内部局、都道府県、観光協会、住民、公共交通事業者、まちづくり支援団体、社会福祉協議会等

(2) 調整方策

景観法に基づく景観審議会において、現地視察を実施し現状を踏まえた議論を行う⑮。住民には情報提供だけでなく、検討段階からWS等を通じて意見交換を行い、計画に住民意見を反映できるよう調整⑯する。  
以上

⑭ 問題は「関係者との調整方策について述べよ。」となっています。「ステークホルダー」は利害関係者であり、景観計画の文脈では、利害関係者＝関係者ではありません。問題に対し、的確に解答しましょう。

⑮ 検討プロセスにおいては、審議会だけでなく検討体制を整えるとしています。不整合に見えます。また、現場を見て議論するも一般論を脱しておらず、技術的提案としては弱いです。合意形成プロセスの設計をあらかじめ行う、行政内部の横断的連携を図る、など技術的提案をしましょう。

○解答欄の記入は、1マスにつき1文字とすること。なお、英字・数字は1マスに2文字を目安とする。

⑯ 聞かれていることは「調整方策」なので、方策を深掘しましょう。例えば、景観協定の活用、3D都市モデルの活用による見える化、など実行手段を明確にしないと選択科目の求める技術的示唆が不十分となります。